

すべての女性が輝く明日のために

JAUW 会報



一般社団法人
大学女性協会

第270号
2020年7月



2020年5月24日 会長・副会長・総務・監事計6名出席のもと本部で行われた第9回定時会員総会



同日午後 新理事会の初顔合わせ 長崎・奈良支部の理事はオンラインで参加（中央PC画面）

特集 第9回定時会員総会・各支部の総会

加納会長挨拶・新理事監事紹介……………	2	委員会報告～会員拡大、国際ネットワーク……	10
愛知での定時総会中止と東京での開催まで ……	3	GWI プロジェクト企画委員より	
愛知支部実行委員長より・議事抄録・理事業務分掌		中止報告～国際奨学生報告会、NGO/CSW64…	11
全国の支部へのアンケート……………	4～7	会員の著書紹介『旅人』	
第22回守田科学研究奨励賞……………	8	お知らせ～公開シンポジウム、コンサート……	12
受賞者研究概要……………	9	Jカフェ、新入会員、70周年記念募金、 国内奨学生募集、理事会から	

知性とは本当ですかと問う勇氣

会 長 加納孝代

このたび鷺見八重子さんの後任として大学女性協会の会長を務めることになった加納孝代です。大輪の向日葵のように美しく、おおらかで、いつも前向きな鷺見さんのあとに立つ者として、大変心もとない気持ちであります。しかし幸いなことに、経験豊富な森川淳子さんと城倉純子さんが副会長、信頼する中山正子さんと野瀬久美子さんのお二人が監事、さらに意欲満々で活発で賑やかな理事の方々が多数おられて、合計16名で支えると言って下さっています。そうだとすればともかくも私が精いっぱい働いたならば何とかなるかもしれないと、覚悟を決めました。全国におられる会員の皆様方にも、なにとぞお力添えをお願い申し上げます。

大学女性協会は、高等教育を受けた女性とその教育の成果をもって、女性の教育の向上及び男女共同参画社会の推進を図り、国際協力と世界平和に尽くす、との決意のもとに1946年に設立されました。

「高等教育を受けた女性」が、「その教育の成果をもって」、「国際協力と世界平和に尽くす」という、大きくて真つ当な目標を堂々と掲げたのは素晴らしいことでした。終結して間もなかった第二次世界大戦の悲惨な経験が、大学女性協会の創立に尽力された方々の胸裡に、国際協力と世界平和という目標を切実に希求させたのでしょう。

さらに創設に関わった人々の優れた発想は、国際協力と世界平和を実現させるには、女性の教育の向上と、男女共同参画社会の形成が不可欠であると認識した点に見られます。女性に十分な教育の機会が与えられ、男女共同参画社会が実現しなければ、国際協力も、世界平和も到来しないという考えは明察に富んだものでした。

「私は大学女性協会に入っています」と言うと、「それは大学教員と大学職員の団体ですか」と訊かれることがしばしばあります。むろんそうではありませんが、それでは「大学女性」とは何でしょうか。私は大学女性とは、知性を備えた女性である、と言ってよいと思っています。そう言うと、では知性とは何ですか、と問われるでしょうが、私は知性とは、ものごとの意味や理由を知りたいと思い、説明

を求める、という積極的な頭の働きのことだと思います。

私が大学で教えていた頃、学生たちに大学で学ぶことの意義を伝えようと考えて、五七五のリズムに乗せた標語を作ったことがあります。「知性とは本当ですかと問う勇氣」もその一つでした。「まず疑いなさい」ということを伝えたかったのです。「本当ですか？

別の可能性はないのですか？」と問いなさい、相手が先生であろうと、誰であろうと、ひるまずに、勇氣をもって、と。

どんなに素朴な疑問であっても、それを先達に問い、次に自分に問うて、自分で解明するという形で、私たちは長い人類の歴史の中、新しい視点を獲得してきたのです。自然科学ではそれが顕著ですが、社会・人文科学の分野でもみなそうでした。

そこで今、私たちにつきつけられているのは、知性を備えた大学女性として、あなたは何を問いますか？ということではないでしょうか。大目的は、国際協力と世界平和、中目的は女性の教育の向上と、男女共同参画社会の形成であると、はっきりしています。その上で、「小目的」、すなわち私たちの目の前にある問題は何なのでしょう。

問う力は問題を見つける力とセットです。私たちは常に目を覚ましていなければならず、人の声や自然の中の音に、耳を澄ませていなければなりません。大学女性協会というところが、私たちの感覚を研ぎ澄まし、物ごとを見分ける力を鍛えてくれる場であってほしいと願っております。

なお本会報の最終ページの「創立70周年記念募金の最終報告」では今後のご支援もお願いしております。良いものを未来世代へプレゼントしたいとの思いから、新たに「未来世代応援奨学金」(仮)のための募金を計画中です。具体的な姿は次号で提示いたします。



2020年 JAUW 理事・監事



後列左より：

長谷川瑞穂支部担当理事、嶋田君枝財務、江原孔江会計、岩村道子奨学関係担当理事

中央左：佐々木澄子広報担当理事、

中央中：中道貞子調査研究担当理事、

中央右：藤谷文子事業担当理事

前列左より：中山正子監事、野瀬久美子監事、

丸山若重総務、加納孝代会長、

森川淳子副会長、城倉純子副会長

※理事会内の業務分掌は3頁下を参照



鈴木千鶴子
CIR, 国際ネットワーク担当理事



山下いづみ
支部担当理事



富田伊津子
会計

新型コロナウイルス拡大による 愛知での定時総会中止と東京での開催まで

妹尾瑤子愛知支部長はじめ支部の皆さまに一年がかりで準備して頂いた名古屋総会は新型コロナウイルス感染蔓延のため中止のやむなきに至り残念至極でありました。ここに未曾有の事態の経緯を記し、前期理事会からの最後のご挨拶に代えさせていただきます。会員の皆さま、ご協力まことに有難うございました。

会長 鷺見八重子
3/9 順調に進んでいた2020年度定時会員総会・愛知総会の開催通知と申込書を送付する時になり完全実施が危ぶまれ、総会一部割愛について愛知支部長に打診後会員に通知。
3/28 理事会を急遽メール会議とし、支部長会・懇親会・定時会員総会のみ実施、午後の講演会・パネルディスカッション・翌日の研修旅行中止を決定。

4/18 メール理事会。書面表決にて名古屋総会中止を決定。
5/1 3議案に絞った議案書・議決権行使書を正会員に発送。
5/24 出席理事・監事6名、議決権行使書490通をもって総会を開催。満場一致にて3議案を承認可決しました。

総務担当副会長 牧島悠美子

総会開催中止によせて

2020年も半年が過ぎようとしています。今年は支部として、一般社団法人となってから2度目の全国総会をお引き受けすることになっていました。昨年12月の例会時から、妹尾瑤子次期支部長を中心に早速準備に入りました。

前回のことを思い出し、全国支部の皆様との再会を思い浮かべ、本部の助言をいただきなら、それぞれ担当者が綿密な調査、打合せ、下見を重ね、愛知県副知事青山桂子氏による講演、国宝犬山城、明治村への研修など実際のプログラムをJAUW 会報第269号でお知らせしました。早速お申込みいただいた支部もありました。

そこへ今回の新型コロナウイルスのパンデミックが発生しました。そのうち収束すると安易に考えていたのでしょうか。全ての生物の頂点に立つと自負している人間にとり不都合なものはすべて取り除くことが出来ると思っていたのでしょうか。自己繁殖できず他の細胞に寄生して増殖する細菌よりはるかに小さく、時として生物と認められないウイルスが短期間に地球上の人々の生活を混乱させました。感染拡大を抑えるため、生活の活動範囲を極度におさえる他ありません。

私たちの総会も開くことが出来なくなりました。外出できず情報の多くをTVや新聞等に頼る生活が続いています。ただ、私自身、逆に色々考える時間を与えられました。

歴史的にウイルスは何度も人々を苦しめてきました。しかし現在の高度に複雑化した社会は医学的な面だけでなく、政治、経済さらには人々の心の問題まで巻き込んでしまいました。DVによる家庭崩壊まで心配されていると言われていました。私たちの活動はどこまでを考えていくべきなのでしょう。種々考えた3ヶ月間でした。

愛知支部 実行委員長 寺田純子

第9回定時会員総会議事抄録

日 時：2020年5月24日13：30～14：00

場 所：(一社) 大学女性協会本部会議室（東京都新宿区）

1. 総会成立確認：市川総務理事より2020年5月24日、午後1時30分現在の出席者数6名、議決権行使書提出者数490名、出席者合計496名を報告。正会員725名の過半数以上の出席により、総会の成立を確認。
2. 開会の辞：鷺見会長より開会の挨拶の後、逝去会員6名の冥福を祈って黙祷。
3. 議長選出：定款に基づき鷺見八重子会長が議長となる。
4. 書記選出：市川知恵子理事
5. 議事：

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：牧島副会長より議案書に基づき貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明がなされた。続いて縄田監事より業務及び会計監査の報告の後、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。
第2号議案 理事14名選任、並びに会長候補者選出の件：議案書に基づき牧島副会長より提案理由及び役員選考委員会西村委員長からの理事候補者推薦についての説明の後、議長が同議案を議場に諮り、挙手賛成5名、議決権行使書の賛成票490名、計495名の承認を得て選任可決された。尚、被選任者は全員就任を承諾した。定款に基づき会長候補者として加納孝代理事が承認された。

第3号議案 監事2名の選任：牧島副会長より議案書に基づき提案がされた後、議長が同議案を議場に諮り、挙手賛成5名、議決権行使書の賛成票490名、計495名の承認を得て選任可決された。尚、被選任者2名は就任を承諾した。

報告事項：①2019年度事業報告②公益目的支出計画実施報告及び監査報告③2020年度事業計画及び予算につき牧島副会長及び市川理事が説明、縄田監事が監査報告を行った。

6. JAUW 公開シンポジウムについて

日 時：2020年10月18日（日）午後1：30～

会 場：(一社)日本女子大学教育文化振興桜楓会桜楓2号館*
テーマ：「教育・ジェンダー・共生」

7. その他

次年度の全国総会・定時会員総会は岡山で開催する。

以上をもって第9回定時会員総会は閉会した。

※（注）公開シンポジウムの会場はその後変更になりました—広報委員会

2020年 理事会内業務分掌

	担当理事	担当委員会
調査・研究	中道	調査研究
奨学・奨励、国際支援	岩村	国内奨学、社会福祉、科学研究奨励、国際奨学
国際支援、CIR・国際ネットワーク	鈴木	国際ネットワーク、文化交流
広報	佐々木	広報、HP運営、生涯学習
事業	藤谷	収益事業、親睦事業、文化事業
支部	山下・長谷川	会員拡大

その時支部は コロナ禍のなかでどう対応しましたか？

2月27日安倍首相が全国の小中高に対して3月2日から春休みまでの臨時休校を要請しました。その後、4月7日には「非常事態宣言」が発令され、5月25日に解除されるまで続きました。

大学女性協会も愛知での総会を中止にし、総会は書面表決にすることが2020年度第1回通常理事会で決定されました。そのことは本会報の3頁に掲載されています。

広報委員会では支部の方たちが Q1] 支部総会をどうされたか、Q2] 今後の活動、Q3] コロナ禍の中で考えたことを会報に掲載する企画を立て、アンケート調査をいたしました。各支部からは創意工夫が感じられ、また、社会の価値観の変化を早々と見ぬく知性に溢れる素晴らしいお答えをいただくことができました。

掲載の形式は Q1] → A1] Q2] → A2] Q3] → A3] になります。

大分支部

内田芳子支部長

A1] メール、FAX 等によって役員会での協議を行い、議案書を会員に送付し、書面表決により、支部総会は無事終了いたしました。

A2] コロナウイルス情報を把握しながら、役員会は臨機応変にネットも含めての協議で行ない、事業は可能なものを実施する方向で考えています。

A3] 手作りマスク、食料の寄付など人の温かさを再認識した一方、自粛警察の張り紙、ネットへの書き込みや医療関係従事者、感染者への誹謗中傷や、差別的な言動に恐怖の念を抱きました。しかし、それに対する抗議の自由までは脅かされていないらしいことに安堵いたしました。国民一人一人がウイルスに対する認識を深め、その予防策を実行し、少しでも早い終息がくることを願ってやみません。

熊本支部

岡本美和支部長

A1] 報告事項は書面にて通知し、はがきやメールで確認させていただきました。

A2] 毎年楽しみにしている阿蘇訪問ができるよう、状況が落ち着くことを願っています。

A3] 会員からのコメントです。

・人類の歴史にはこのような「禍」が何度かあったのだろう、と推測し、1日も早い終息を願うばかりです。

・日本の家庭は今も、オトコは仕事。オンナは家事・育児・仕事です。令和になっても何と理不尽で不公平な事か。

・大気汚染調査に参加しましたが、コロナ影響で空気が少し清浄化されてないかに関心があります。

福岡支部

青沼美撫子支部長

A1] 5/10 (日) 支部総会中止、書面支部総会に変更。

総会資料を会員27名に送付し25名の承認書を受領。

総会成立、承認されました。

A2] 9/27 講演会「新移民時代？」講師：守山 恵子会員

11/8 一日ツアー「杵築 跡とその周辺」3/7 勉強会「未定」

A3] 現実を正しく恐れて受容し、JAUW の活動は何時からでき、全ての収束は何時か？ 全会員の日常はどうか？と考えました。

長崎支部

梅田和子支部長

A1] 支部総会を中止としたため、2019年度決算報告書、事業報告、2020年度予算書、事業計画をメールにて報告した。

A2] JAUW 長崎支部が所属する「ながさき女性・団体ネットワーク」を中心にサポートする「長崎市役所女性記者性暴力訴訟」及び「県ハラスメント訴訟」の口頭弁論・報告集会などへ参加していく。

A3] 世界中で、当たり前の日常が当たり前でなくなり、今後は「新しい生活様式」が求められ、日常が戻るまではまだまだ時間がかかりそうですが、少しでも潤いのある生活が送れるよう工夫していきたい。

広島支部

吉村幸子支部長

A1] 広島支部総会は新型コロナウイルスの拡大を防ぐため中止（延期）。

A2] 4月5月の活動はありません。今後社会状況を確認し開催等については検討する。

岡山支部

角田みどり支部長

A1】 岡山支部ではJA UWに準じて書面議決の方法を取り、会員に議案書を事前に送付、返信葉書にて書面表決を回収。総会当日は支部長をはじめ役員8名がZOOM会議にて出席、会員55名全員の承認にて成立後、結果を報告した。

A2】 3月8日の国際女性デーイベント「女性とスポーツ」、6月予定「女性の教育・女性の幸福」市民協働事業、7月予定「留学生文化体験事業」を全て延期し、11月以降に新型コロナが収束して環境が整えば開催する。

A3】 長期間のStay Homeによる児童虐待の増加、コロナ対応での首長の政治能力格差、医療従事者への不当な差別問題、など負の影響を乗り越え、岡山支部ではオンライン会議による役員会開催という新しい挑戦が実現。Withコロナの姿勢で！

神戸支部

松村和子支部長

A1】 4月4日開催予定の「リードあしや」閉鎖のため委任状で支部総会成立しました。会員数51名、委任状37名。

A2】 4月10日に総会次第配布、4月27日ZOOMでネット支部会議、5月15日 第1回「支部たより」送付、6月1日第2回ネット支部会議、2021年1月新春のつどい予定。

A3】 会議はネット会議でお稽古もスカイプ。なにか寂しいです。コロナが収まっても、たくさんの人との接触はやはり怖いです。高齢者の多い会ゆえに、ワクチンができるまで今までのように簡単に集まれない、もし感染したらと責任が重いです。油断はできませんが、マスクをしてのんびりゆっくりと、コロナの世界と付き合わないといけないと思います。

大阪支部

片岡みか支部長

A1】 全国総会中止の連絡を受け、5月に延期。さらに緊急事態宣言に伴い、6月に延期。会計担当交代に伴い、口座の名義変更が必要となり、支部規約を変更する必要が生じ、延期して開催することにしました。

A2】 例年通り、9月には国内奨学生選考会、2～3月にはその中で、本部で選ばれなかった応募学生による講演会を予定。その他は、コロナウイルスの影響を鑑みて役員中心にメールで開催内容等を検討する。

A3】 不治の病が不治で無くなると新しい病気が出てきて、人類は常に挑戦状を突きつけられているようです。今回のコロナ禍では、改めて家族のあり方、人との付き合い方、働き方等を考えるきっかけになりました。

京都支部

高橋侑子支部長

A1】 4月初旬役員間、メールなどで総会中止、書面による議決をすることを決定。その旨全会員に連絡。4月16日議案書を発送。会員35名中、29名より返信あり。返信者全員から承認を得る。5月11日、結果を全員に発送。

A2】 役員間で予定していた6月例会について、ネット上で中止の決定をする。今年度最初の顔を合わせる役員会を、7月4日に開催予定。コロナの感染状況を考慮しながら今後の活動について協議する予定。

A3】 人間は自然の中で生きているということ、現在もこれからも広く全人類の協力が必要になってくる。それがどのように実現されてゆくのか興味を持って見守ってゆきたい。

奈良支部

中道貞子支部長

A1】 支部総会は対面での開催を中止。審議事項への賛否は郵送書類で実施し、すべての審議事項が成立した。

A2-3】 今年度行事の一つとして「留学生との交流会開催」を予定しているが、COVID-19の世界的流行により、活動の制約が予想される。上記行事の参考資料にすることも考慮して、留学生を対象に「私の国の女性たち」をテーマにしたレポートを募集した。それぞれのお国事情のわかる興味深いレポートが提出された。応募者には、支部会員に呼びかけた「コロナ支援募金」の中から、些少ではあるが奨学金を支給した。今後も活動は制約されるだろうが、できることを積極的に検討し、ポストコロナ時代の新しい活動のあり方を模索していきたい。

愛知支部

妹尾瑤子支部長

A1】 4/18（土）の予定でしたが中止。7/11（第1回目の例会予定日）に延期。しかし同時開催のハンセン病関係の講演会を中止と決定したため、さらに9/19まで延期としました。

A2】 9月ネパールからの留学生を囲んで座談会、10月ピースあいち（戦争と平和の資料館）見学、11月臨床心理士の方の講演会、12月次年度行事検討会、1月新年会、2月奨学金応募者発表会を予定。

A3】 超過密状態の近代都市、どこへでも行き来自由な交通網、動物と人類との住みわけの境界線の破壊などから引き起こされたものではないかと思います。人類のエゴ・やさしさがあからさまになったのでは。

静岡支部

山下いづみ支部長

A1】 4月開催予定の支部総会を中止し、書面決議に変更をして、4月30日に議決成立となりました。

A2】 昨年、県内の様々な職種の女性たちに「女性のキャリアアップ」についてヒヤリングをし、報告書を作成。今年度はその方々との懇話会開催予定。また、元支部会員も招いて静岡支部の集いを開催予定。

A3】 コロナ禍では、一時、全国でトイレットペーパーの品切れが続き、不安時の住民の行動連鎖を改めて知った。情報氾濫のなか、コロナ禍は世界中を巻き込み、働き続けてきた結果、何をもって豊かな社会なのか、問われていると感じた。

金沢支部

笠間昭子支部長

A1】 支部総会として6月末まで、延期で様子見。「三密」が緩くならない場合は、定例総会は中止し、後半に次年度支部長選出。ならびに次年度活動方針を相談するために臨時総会開催を予定しています。延期の場合、定時総会用資料を全員に郵送。

A2】 秋には「三密回避」対策ができていく会場で「集い」を計画。活動は高齢者に必要な情報をさがし、郵送。活動は中止します。顔を合わせる場が重要と思います。オンラインなど機械的手段は支部会員の結束の観点からみて使わない。

A3】 テレワーク、オンライン授業、個人のボランティア活動などがICT化されていくことに危惧を感じています。

福井支部

高橋博子支部長

A1】 メールで行った。(支部会員が6名で、通常の連絡もメールで行っている。)

A2】 活動を継続していきたいが、大勢の集まる公開講座は中止した。定例会も状況を見ながら再開していきたいが、難しい場合はメールで行う予定。

A3】 直接人と会えない、外出できないのは思った以上に活力が低下すると感じた。PCなど活用して人とコミュニケーションをとったり、今までの活動を深めたりして継続するのは大事だと感じた。

長野支部

三田コト支部長

A1】 4月17日に予定していましたが、コロナ関連で中止。2019年度の事業報告と会計報告など書面で認めてもらいました。会費は次回に。

A2】 「高齢期を生きる」のテーマで例会を3回予定しています。内容は話し合い、研修などです。食事・運動・社会参加のことも。ちょこっとヨガもします。

A3】 長野県の感染者はずっと76です。「信州の観光はお休みです」のキャンペーンを知事が放送していました。県新型コロナウイルス対策条例案は、県危機管理委員会で必要性に質問が相次ぎ条例案決定は15日に先送りとなっています。みんなマスクをつけて歩いています。運動不足にならないように気をつけて外出しています。

東京支部

長谷川瑞穂支部長

A1】 4月11日(土)に予定していた東京支部総会は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となり、議決権行使書により第1～5号議案は可決されました。

A2】 東京支部のチャレンジ奨学生、国際奨学生の募集、「ともしび」68号、69号の発行は例年通り行う予定です。サークル活動は「水墨画教室」6月から再開、「源氏物語を読む会Ⅱ、Ⅲ」は会場の都合で9月から再開の予定です。講演会、講習会などは、状況を見ながら検討していきます。

A3】 100年に一度というコロナ災厄に遭い、多くのパラダイム・シフトを経験しましたが、オンラインなど新しい様式をより導入しつつ、コロナに負けないで、東京支部を発展させていけたら幸いです。

神奈川支部

丸山若重支部長

A1】 書面による支部総会とし、一部会員のみ総会資料を郵送で、殆どの会員にはメールで送り、議決を返してもらう形としました。1週間で55%の賛成票があり、無事成立です。早くから準備をしておいたので手早く済みしました。

A2】 支部長が本部理事掛け持ちとなってしまったこともあり何も計画できない状態です。昨年からの延期となった催し1件を除き、現時点で支部としての活動は予定していません。個々の会員が自ら活動してくれるよう望んでいます。

A3】 多くの人が正しい衛生概念を知らないことに驚きました。一方、社会全体でテレワークが急速に進んだ事は、将来のために良いと考えています。無用の移動や会議などを見直し、時間的効率を考えて行動すべき時です。

新潟支部

田代信子支部長

A1] 4月25日に予定していた支部総会は3月末まで開催の準備をしていた。緊急事態宣言が現実的になり、書面決議に変更し、4月12日に会員へ議案書を郵送。4月25日集計し結果を報告した。

A2] 7月の例会・学習会は中止。9月、10月は未定。支部の重要事業である奨学賞を贈るつどいは12月に授与式のみ開催を検討中。役員会はメール等を利用し参集は必要最小限に。2月の例会・学習会はオンラインセミナーを検討中。

A3] 普通にできていたことが、実は有り難いことだったと再認識した。学業継続が困難な学生も出ているとの報道に奨学賞のあり方や例会の持ち方を再考するなど、支部としてどういうことができるのか考えたいと思う。

茨城支部

安藤隆子支部長

A1] コロナウィルスの流行が拡大してきたため、支部総会中止としました。今年度は役員改選がなかったため、総会資料を全会員に送付し、意見を問う形をとりました。意見は会長メールを記して会長宛て送る方法をとりました。

A2] ソーシャルディスタンスを保ちながらの活動は難しい面があります。今後の活動として、生活のヒントの交換と交流を一つの目的として自粛生活に係るアンケート調査(会員向け)やSDGsの勉強会を考えています

A3] 感染症についての知識を正確に知ることが大事だとコロナの様々な情報が飛び交う中で思いました。情報に惑わされない目を持つこと、人間としての心を見失ってはいけないということを強く感じています。

群馬支部

岡崎朋美支部長

A1] 電話にて、在籍等の確認を行いました。

A2] 支部主催の活動は行わず、各自の判断において、それぞれの分野で活動することとします。本部事業への参加、所属団体(群馬県女性団体連絡協議会等)事業への参加等です。

A3] コロナがもたらした甚大な影響を忘れてはならず、まずは、一刻も早い収束を願うばかりです。

仙台支部

相澤富美江支部長

A1] 当初は4月22日に予定していましたが、会合を持たず、書面で行うことになりました。4月15日、会員にメールや郵送にて議案書を送付、30日までに賛否の返信をもらい、全ての議案が承認されました。

A2] 支部総会后、支部便りを発行しました。総会后、まだ役員会は開催できない状態です。当面はメールやオンラインを活用して開く予定であります。今年度の事業については、安全を第一に感染状況を見ながら考えて行く予定です。

A3] 世界中があらゆる面でこんなにもダメージを受けてしまうとは、想像もつきませんでした。早くワクチンや治療薬が開発され、乗り越えた時には、さらに進んだより良い世界になるようにと願っています。

秋田支部

橋本澄子支部長

A1] 資料を会員に郵送。議事への賛否、意見は同封のハガキを返送、結果は全部承認された。

A2] 昨年秋田市副市長に依頼し、担当者と面談、要望し、「終活登録制度」設置の進捗状況を把握。公開研修会「おひとり様問題」実施予定。知的障害者施設ウェルビュー泉でお茶会開催予定。委員会随時開催予定。本部奨学金、関係他団体の会合に出席予定。

A3] ウイルスが世界を危機に陥れ恐ろしい。ワクチンの開発等医学の進歩が期待される。新しい生活様式に変化していきそうだがリモートなどに弱い一人暮らしの高齢者が取り残されぬようでありたい。

札幌支部

堀内満智子支部長

A1] 自粛要請で支部総会中止。実施内容役員会一任の承認を得て、6月5~7日ML類似形式での意見共有型メール総会を実施。中間報告を経て、回答書1(議案)・2(提案)の最終報告書と議事録送信で支部総会終了。各自のペースで発信し情報を共有できるメール総会だからほぼ全員からの活発な意見を交換することができた。

A2] 最終報告書からできる範囲で例会などの活動を計画。'19年度公益事業費終了の支部奨学生事業も10回目となる'21年度迄継続が多数意見。会員18名の高齢化・役員不足で支部休会の意見もあったが、多くが今後の支部活動継続を希望。

A3] 支部会員への被害がなくてよかった。

第22回大学女性協会 守田科学研究奨励賞

科学研究奨励委員会委員長 菅原 洋子

第22回守田科学研究奨励賞は、有機光化学分野の小阪田泰子博士とエクソソーム生物学分野の星野歩子博士が受賞された。第22回守田科学研究奨励賞の贈呈式と、これに引き続き祝賀パーティーを6月7日アルカディア市ヶ谷会館において行うことを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大をさけるため、残念ながら開催を見送らざるを得ない事態となり、守田科学研究奨励賞の賞状（楯）と副賞は、受賞者にお送りさせていただくこととした。

小阪田泰子博士は、大阪大学工学部応用自然科学科を卒業後、同大学大学院工学研究科博士課程へ進み、2009年に博士（工学）を取得した。その後、日本学術振興会 海外特別研究員（於米国スタンフォード大学）、科学技術振興機構 さきがけ専任研究者、大阪大学産業科学研究所 助教などを経て、2017年に大阪大学高等共創研究院／産業科学研究所 准教授に着任し、現在に至っている。小阪田博士は、生体をイメージング・光制御する新しい有機分子・材料の開発を光・放射線化学を利用して行うことをめざした研究を行ってきた。生体適合性の高いソフトなナノ材料からの硬X線励起発光を世界で始めて明らかにした。この成果は、新規光イメージング技術の展望あるポテンシャルを示すものとして評価されている（図1）。また、生体分子の機能を変化させる光触媒として、紫外から近赤外領域にまで幅広い吸収を有する、超薄層ポルフィリン二次元ディスクポリマーを有機化学的に設計、合成し、その可視・近赤外光応答性光触媒機能を示した。このような薄層二次元ポリマーの合成とその光触媒機能の向上に関する研究は新奇なものであり、今後の生体機能操作への利用が期待されている。

星野歩子博士は、東京理科大学理学部応用化学科を卒業後、東京大学大学院新領域創成科学研究科の修士、同博士課程に進学し、2011年に博士（生命科学）を取得した。大学院では、がんの進展メカニズムについての研究を進め、特定のがん間質線維芽細胞が、がん進展促進に関わることを見出し、さらにその特定の集団中のポドプラニン陽性細胞が肺がんの転移促進に寄与することを明らかにした。博士取得後は、がん転移に関して「前がん転移ニッチ説」を提唱していたコーネル大学のLyden 研究室に赴き、新たな視点からのがん転移のメカニズム解明に取り組んだ。星野博士は、前がん転移ニッチでおきる組織学上の変化を電子顕微鏡で詳細に観察し、エクソソーム様小胞が多く存在することを見出した（図2）。さらに、臓器特異性のあるがん細胞が産生するエクソソームは、がん細胞の未来転移先へ

選択的に分布していくことを発見した。これらの研究が認められ、2019年東京大学医学部 ニューロインテリジェンス国際機構の講師に着任、同時に科学技術振興機構 さきがけ研究員、Weil Cornell Medicine Adjunct Assistant Professor となり、本年4月からは、東京工業大学生命理工学院准教授に着任している。現在は、その成果を脳疾患研究へと展開しており、将来が期待される女性研究者である。

お二人の受賞講演は、来年6月に第23回守田科学研究奨励賞受賞者の受賞講演と合同で行うことを予定している。

第23回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

趣 旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。
対 象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2021年4月1日現在）の女性科学者を対象とします。
授賞件数：年2件以内。賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類*

1. 研究題目とその概要（A4判1頁～1.5頁程度）、今後の展望および抱負（A4判0.5頁程度）（全体でA4判2頁以内）
2. 推薦状（厳封）
3. 履歴書
記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所・電話、所属機関（住所、電話、FAX、e-mail）・職名、（連絡先に○）、専門分野、学歴（高校卒から）、学位、職歴、賞罰
4. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
5. 主要な論文5編以内の別刷り

*返却いたしません。1. 3. 4. は各15部、2. は1通、5. 論文別刷り（コピーでも可）は3部提出のこと。

*外封筒に「第23回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募書類」と明記。

応募締切日：2020年11月16日（月）（必着）

選考結果の通知：2021年3月

書類送付先・連絡先†：一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地 6-101

Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889

http://www.jauw.org e-mail：jauw@jauw.org

†応募書類の発送時に、応募者名、所属、研究題目、連絡先、応募書類の発送日を明記したeメールを、科学研究奨励委員会委員長 菅原洋子（e-mail：sugawara@sci.kitasato-u.ac.jp）宛に御送付ください

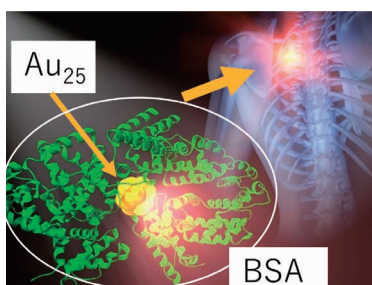


図1. 生体分子（ウシ血清由来アルブミン：Bovine Serum Albumin）に内包され、硬X線励起により赤色発光する金クラスター（Au₂₅）の生体イメージングへの応用（小阪田博士提供）

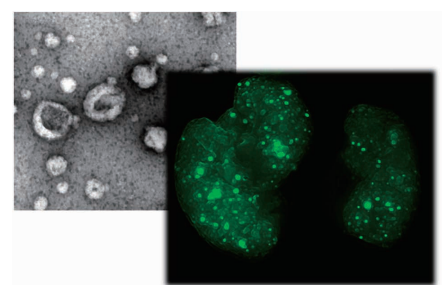


図2. エクソソームの電子顕微鏡写真（上）と肺転移性乳がん細胞由来エクソソーム（緑）によるマウス肺への臓器特異的分布（下）（星野博士提供）

新しい光化学・放射線化学特性を持った ナノ材料の創製

大阪大学高等共創研究院／産業科学研究所
准教授
おさかだ やすこ
小阪田 泰子



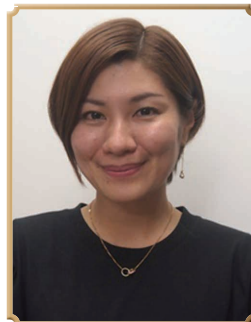
「分子の集合体であるナノ材料を利用した、生体を光イメージング・光制御する方法の開発」を目的とした研究を行ってきた。生物イメージングや光により機能を操作できる手法やエネルギー変換材料の開発は活発に行われてきたが、有機材料を用いた手法は非常に限られていた。そこで、分子が集積化した有機材料を自在に利用し、光機能性ハイブリッド分子・材料を設計・合成することで、生物イメージング手法や光操作法の開発を行い、バイオサイエンスへの応用を目指した。

硬X線は、画像診断解析や放射線治療など幅広く医療の現場で用いられている。より低線量での高感度なイメージング法や治療に向けて、硬X線励起によって発生する可視光発光を利用することが提案された。しかし、生体に利用できるナノ材料が硬X線励起で発光するという研究は私が着手するまで全く報告されていなかった。そこで、硬X線励起で発光する生体適合性の高いイリジウム錯体含有ポリマーナノ粒子や金属クラスターを開発した。この硬X線励起発光の研究では、従来、全く知られていなかった生体適合性の高いソフトなナノ材料からの硬X線励起発光を世界で始めて明らかにした。これらの成果で、新規光イメージング技術の展望あるポテンシャルを示すことができた。

生体内で光化学反応を引き起こし、生体内の生体分子の機能を変化させる光触媒の開発が望まれている。しかしながら、光触媒として有名な金属酸化物などの既存の無機材料光触媒は、主に生体透過性の低い紫外線や可視光の一部を利用し、また材料そのものの生体毒性等の懸念もある。それ故、生体毒性の低い有機材料で、生体利用可能な近赤外領域の光にも応答するものが開発できれば新たな研究が開拓できる。私は、紫外から近赤外領域にまで幅広い吸収を有する、僅か1 nmの厚みを有する超薄層ポルフィリン二次元ディスクポリマーを有機化学的に設計することでその合成を達成し、さらにその光応答性触媒機能を示した。その結果、これまでに共有結合性有機構造体(Covalent organic frameworks: COFs)を剥離することでは合成が達成できなかった1 nmの薄さを有する二次元高分子の新たな合成方法を示し、さらにその剥離したポルフィリン二次元ディスクの近赤外照射による水素発生反応の光触媒の高機能化を示した。このような薄層二次元ポリマーの合成例とその光触媒機能の向上に関する研究例はなく、今後の生体機能操作への利用が期待されている。

エクソソームを媒体とするがん転移及び 自閉症病態機構の解明

東京工業大学 生命理工学院
准教授
ほしの あゆこ
星野 歩子



がんには、がん細胞が生き残るための巧妙なメカニズムが潜んでいる。「転移」もそのうちのひとつで、数々の研究者が転移機構の解明に力を注いできたが、多くのがん種で未だ転移抑制治療には至っていない。がん転移には臓器特異性があり、例えば乳がんは肺、肝臓、骨、脳へ転移しやすい性質を持つ。様々な転移機構の中でも、臓器特異性を説明することは難しく、がんが何故特定の臓器に転移するのかは最大の謎とされ続けてきた。

私はマウスモデルを用いて、転移先臓器が決まっているがん細胞が転移する前に、その臓器で何が起きているのか組織学上の変化を電子顕微鏡で観察して、エクソソーム様の小胞が多く存在することに気づき、その役割に着目した。エクソソームは全ての細胞から産生される30-150nmの微小胞で、もともとは細胞のゴミ処理機構と考えられて来たが、近年では、新たな細胞間コミュニケーションツールとしての重要な機能が着目されている。私は、先ずがん細胞の産生するエクソソームが拡散し、どのように分布してゆくのかを調べた。その結果、臓器特異性のあるがん細胞が産生するエクソソームは、がん細胞の未来転移先へ選択的に分布してゆくことを発見した。

さらに、エクソソームは、各臓器内で特定の細胞へ取り込まれることが分かった。その詳細を解析することに成功し、肺転移性のがん細胞由来エクソソーム上に存在するインテグリン $\alpha_6\beta_4$ が郵便番号の様な役割をし、転移先である肺の線維芽細胞や上皮細胞への選択的分布を担うこと、膵臓がん由来エクソソーム上に存在するインテグリン $\alpha_v\beta_6$ が肝臓クッパー細胞への選択的分布を担うこと、を見出し、それぞれにおいて転移前がん細胞が転移しやすいニッチ(前転移ニッチ)を形成することを実証した。

一方、脳特異的転移についてはエクソソーム上のインテグリンとは異なる分子、CEMIPが関わることを見出し、それにより脳内の微小環境を転移促進的に働く環境へと変化させていることを共筆頭著者として報告した。以上の研究は、がん転移メカニズムの理解を飛躍的に加速した。私はこれまでの結論として、転移とはがん細胞が転移先臓器に到着する時ではなく、転移先臓器が前転移ニッチを形成している時から起きているという認識が必要であり、前転移ニッチをターゲットとした治療を検討することでがん細胞が転移先へ到着する前にそれを阻止する治療が可能となる、という見解に至った。

現在は、がん転移研究で見つかったエクソソームの機能に注目した研究を、自閉症病態を含む脳疾患研究へと展開し、エクソソームが遠隔に位置する末梢組織と脳を結び、脳における機能や様々な病態に関与するという生理学の新しい概念を切り開くことを目指している。

会員拡大委員会報告（長野支部訪問）

会員拡大委員会2019年度委員長 森川淳子



2019年度は、インドからの国際奨学生が信州大学で研究をすることになり、国内奨学生も信州大学の大学院生が選ばれた。2019年は長野の年であったといえる。

会員拡大委員会では、総会、セミナー、新春のつどいではなかなかお目にかかれない長野支部を訪問した。小雪舞う2020年2月18日、長野駅前の油屋で昼食を共にし、懇談することが出来た。長野支部からは三田支部長以下5名、委員会と理事会から5名。JAUWの3つの目的に沿って活動をしているとのこと。会員の高齢化、固定化、なかなか若い人が入らない、本部は遠い存在に思える、とのことだったが、直接お会いして話をしているうちに、少し身近に感じていただけ、国際奨学生の報告会に申し込みをしてくださった（コロナの影響で中止）。メールや電話だけでなく、直接顔を合わせての人と人のつながりが大事であることを改めて感じた。今年は信州大学とのご縁も深くなり、奨学生の講演会を開くとか、そこから会員の募集にも繋がるのではないかと期待している。

どこの支部にも見られるようだが、本部から支部長に送るもの（報告書、DVDなど）は、支部会員で共有していただければ、支部員にも JAUW の活動が伝わるのではないかと、一人一人が認識を新たにすることで、新たな会員募集にも繋がると思う。

他にも存続が危ぶまれている支部もあり、休会を申し出ている支部もある。このようなことは出来るだけ避けたいと会員拡大委員会としても、連絡を密にしていくよう努めたい。

「世界はつながっている。無関心は許されない」

国際ネットワーク委員会 2019年度委員長 山下いづみ

国際女性デーによせて今年も、2月24日 JAUW 本部事務所にて、NHKのインタビュー番組によって、性暴力と闘う医師、ノーベル平和賞受賞者デニ・ムクウェゲ氏の活動を学び、その後、参加者14名で性暴力について「わたしたちにできること」を巡って意見交換をしました。会員が録画してお薦めくださった番組だけあり、鑑賞後、心が揺さぶられる参加者は多くいらしたと思います。

コンゴ共和国のスマホ原材料となる鉱物コルタンが武装勢力の収入源となっていること、性暴力が組織的戦略的武器として行われる甚大な人権侵害の実態、レイプ被害にあった女性たちを治療していたムクウェゲ医師が、彼女らの孫娘たちもさらに被害を受ける現実を前にして、国連に行動を起こしたことなどが語られていました。被害の痛みから立ち直り、コミュニティ変革のリーダー的存在になっていく女性たちの強さも賞賛されていました。

意見交換では、「利他の考えをみんなで持とう、（この考え方を広める）」「日常の中で、平等やジェンダーについて話をする」「男女平等の考え方を広く啓発、人権尊重」「自分の思いをしっかりと言いましょ！」「人の考えを聞くことも大事だが、それを聞いて自分もしっかりと語ろう！」「社会基準とすべき正義をしっかり持って、その立場を発言、発信する人となる」など意見が出されました。

小さな気づきを実行することが、社会貢献の一端にもなり、自分たち自身の地球市民としての責任でもあると考えました。その後、3月8日国際女性デーには、会員有志が参加者のメッセージを SNS 発信しました。



GWII プロジェクト開発委員会の仕事

愛知支部 Irene Gashu（賀集イレーネ）

GWIIのプロジェクト開発委員会（PDC）の委員になってからもうすぐ一年になります。委員長はインド、他の委員はカナダ、エルサルバドルとウガンダに住んでいます。連絡はEメールと月に一回オンライン会議で行っています。GWIIは多くの開発途上国のプロジェクトを支援しています。委員会の主な仕事は新しいプロジェクトの申請書を読んで、評価することです。支援を受けることになったプロジェクトは半年後に中間報告書、そして一年後には最終報告書を提出するので、これらの評価もします。

今年からのプロジェクトをいくつかご紹介します。

- セネガルでは高校を卒業する女子の数を増やすためのワークショップを行う
- ネパールでは5つの公立学校にインターネットを設置し、先生方に使い方を教える
- ガーナでは気候変動と環境汚染について、貧しい地域の女子に説明する
- ハイチでは地域の女性を対象に新型コロナウイルスに関する講習会を開く

我々が払っている会費の一部が有意義なプロジェクトに使われるようにするのが、PDCの仕事であると思っています。



コロナ禍に揺さぶられた国際奨学委員会

国際奨学委員会2019年度委員長 岩村道子

国際奨学委員会の主たる業務は年度末から新年度初頭に集中しております。そのために COVID-19の世界的な蔓延によりいくつかの業務を次のように変更・中止いたしました。

- 2019年度国際奨学生研究成果報告会（3月7日開催予定）を中止し、奨学生からは研究成果をレポートとして提出してもらいました。当日は奨学生の指導に当たられた神崎護京都大学教授と久富隆史信州大学准教授がご出席くださり研究内容について日本語でご説明くださる予定でした。報告会は奨学生と JAUW 会員との唯一の顔合わせの機会ですから開催中止は非常に残念でした。

- 渡航制限や航空便のキャンセル等により国際奨学生から帰国日程変更の申し出があり承認しました。Idd さん（ミャンマーより京都大学へ）は予定を数日早めて3月21日に帰国。Ramuさん（インドより信州大学へ）は3月末の全航空便がキャンセルされたため4月以降も研究を継続し、6月21日のインド政府チャーター便で帰国。滞在先教員の適切なご配慮、とくに滞在延長の費用ご支援により両学生とも無事帰国できたことに感謝しています。

- 2020年度国際奨学生募集は昨年11月から本年3月31日まで行い63名の応募がありました。例年なら5月の選考委員会で奨学生候補者を決定し、6月の理事会に提案しています。しかしコロナ感染の世界的長期化予測から奨学生の今秋の来日が困難になる可能性を懸念して、3月31日のメール理事会に「奨学生選考取りやめ」を提案し承認を得て、ただちに応募者と引受先の教員にメールで連絡しました。

2021年度の国際奨学生募集は今年11月に開始する予定です。それまでにコロナ禍も終息の方向に向かっていることを願っております。

コロナ、禍を福と思える時は？ —CSW64中止を受けて—

CIR 鈴木千鶴子

例年3月第2週日から2週間にわたりニューヨークの国連本部で開催されてきた女性の地位委員会（CSW）。今年は、丁度1995年の第4回世界女性会議（北京会議）から25年の節目となり、「北京+25」をテーマに掲げ、北京行動綱領の12領域（貧困・教育・健康など）の重大課題について、各国および5つの地域グループでレビューがなされ、準備が重ねられていた。NGOによるパラレルイベントも含め、これまでにない大規模な集いになると期待が膨らみ、大学女性協会からも若手支援で選ばれた田中優希さん（長崎純心大学）を含め5人が、参加登録から全ての準備を完了していた。その間抱え続けていた新型コロナウイルスによる感染症拡大への懸念は、3月2日の国内での直前勉強会（JAWW主催）がZoom会議となった時点で一気に現実のものとなり、翌日の国連およびNGO CSW/NYからの発表（開会式と合意結論採択を除き休止）により、私たちの渡航も全て中止を決めた。

落胆の中迎えたCSW64本会議の開会行事は、リアルタイムでライブ配信された。16日には、本来はマンハッタン北部のハーレム地区にあるアポロシアターで開催予定だったNGO CSW/NYのコンサルテーション・デイが、ヴァーチャル・カンファランスとして一週間遅れで、日本では真夜中に開催された。

このように、様々な制限を受けたCSWの経験を、若手学生参加者たちと共有することを通して、国連とNGOsが取り組んできた課題の多さと重大さを、寧ろ凝縮・焦点化した形で、理解できたと感じた。ジェンダー平等の根源的障壁は、我々の人権意識の欠如であることも、コロナ禍で炙り出された。この禍を福とすべく尽力することを再決意した2020年春であった。

会員の著書 紹介 久代佐智子（京都支部）著 『旅人』

大学女性協会京都支部会員の久代佐智子氏（京都女子大学名誉教授）が90歳の長い人生を「旅」になぞらえ、若き日々を回顧して書かれた自伝的小説です。主人公は、太平洋戦争中の昭和18年に京都府立第一高等女学校に入学、戦後最初の女子学生として大学に進学。昭和30年大学院在学中にカンザス大学に留学、英文学者の道を歩みます。

第1章「府一時代」では、戦時の物資窮乏と統制下での農家や工場での勤労奉仕、動員先での空襲、さらに敗戦後の混乱と向き合う女学生の姿が描かれます。戦後に再開された女学校で、主人公は尊敬する教師と出会い、女子専門学校への進学を決意します。

第2部「万里子の行路」では、女性に開放された大学で学ぶ喜び、著名な教授との出会いと学問への目覚め、男子学生との交流、フルブライト奨学生として在学したカンザス大学での経験が描かれています。

大学婦人協会（現一般社団法人大学女性協会）の奨学金で憧れの『研究社新和英大辞典』を購入したという、貴重なエピソードもあります。

小説という形をとっていますが、主人公の生き方はまさに著者自身の姿に違いありません。女性が学問を継続するのが困難な戦後の時代に、真摯にひたむきに勉学に取り組む著者の姿勢から、学びの原点を教えられたように思います。

（京都新聞出版センター、2019年12月発行） 記：香川せつ子（広報委員会）



なお、本会報の発行を目前とした7月1日、久代佐智子様をご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



2020年度公開シンポジウムのご案内

テーマ 「教育・ジェンダー・共生」
 ーコロナ禍を契機に見えてきた教育の本質ー

日時：2020年10月18日（日）午後1時30分より
 会場：TIME SHARING 四ツ谷B
 開催方法：①、②のいずれかで開催
 ①オンラインと会場参加の併用、②オンライン開催
 内容：基調講演とパネルディスカッション
 ・基調講演 中村桂子氏(JT生命誌研究館名誉館長、理学博士)
 *生命論的世界観に立って「生命誌」という新しい知を研究
 ・パネリスト 中野真依氏、本多さくら氏、中道貞子会員
 *今後詳細はホームページでお伝えします
 企画委員長 城倉純子

コンサートのお知らせ 文化事業委員会

天満敦子 無伴奏ヴァイオリン ～祈り～

日時：12月2日（水） 13：45開場 14：30開演
 場所：ハクジュホール 小田急代々木八幡駅南口徒歩5分、
 地下鉄千代田線代々木公園駅出口1徒歩5分
 *ハクジュホールは消毒、検温等のコロナ対策に万全を期して
 います。300席のうち150席を使用
 曲目：望郷のバラード、タイスの瞑想曲 他
 チケット：全席指定 一般4,000円 学生2,000円
 ☆日本を代表するヴァイオリニスト天満敦子氏の演奏です。
 ご期待ください
 ☆詳細はホームページをご参照ください（毎月15日更新）

Jカフェの報告とご案内 生涯学習委員会

◎第7回Jカフェの報告
 2020年2月19日（水）13：30～15：30、本部事務所にて開催
 「驚き、楽しさ満載の日本語教育」
 ～米コロラド州での教師経験を経て～
 講師 中野真佐子（東京支部会員）
 詳細はホームページJカフェ報告にあります。
 ◎第8回Jカフェのご案内
 「バーミヤンでの学校建設にかかわって」
 ～アフガニスタンで見たこと考えたこと～
 講師 中道貞子（奈良支部会員）
 2020年6月23日開催予定をコロナ禍で延期。今後の予定はホームページでご確認ください。

新入会員 理事会承認 2020年3月～6月

茨城支部 富田 敬子 東京支部 蓮見 元子 神戸支部 芝 邦子

創立70周年記念募金の最終報告と継続的支援のお願い

2020年2月1日～6月30日 寄付人数3名 寄付金額 ¥15,000
 寄付者ご芳名（敬称略）：（群馬支部）植原映子
 （東京支部）森川淳子（新潟支部）田代信子
 お陰様で、寄付者総延べ人数665名、寄付総額10,068,313円に達
 しました。ご寄付は今後も以下の口座をお願いいたします。
 ・郵便払込／振替 00130-0-587701
 加入者名：一般社団法人 大学女性協会
 ・ゆうちょ銀行 店名 ○一九（ゼロイチキョウ）
 店番 019 当座 0587701

2020年度国内奨学生募集のご案内

一般社団法人 大学女性協会 2020年度国内奨学生募集要項

- I 応募資格
- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
 - 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
 - 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- *備考
- ・経済的理由は、一切問わない。
 - ・1大学から各部門1名ずつ応募することができる。
 - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再応募することはできない。
 - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
 - ・在籍年数に休学期間は含まない。
 - ・翌年2月末日に、現在の大学に在籍であること。
 - ・秋入学の場合は応募年の10月末日時点で上記資格をみたしていること。
- II 支給額および募集人数
- 一般奨学生 大学院生20万円 6名
 - 社会福祉奨学生 学部生10万円
 - 大学院生20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
 - 安井医学奨学生 大学院生30万円 1名
- *備考
- ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
 - ・奨学金は1回限りである。
- III 提出書類（下記(1)、(2)、(3)、(4)、(6)はホームページからダウンロードして使用のこと。6月中旬掲載）
- (1) 履歴書・自己紹介書（写真貼付）
 - (2) 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書
 ・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。
 ・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
 - (3) 研究・勉学の内容について
 ・大学院生は様式A
 ・学部生は様式B
 - (4) 研究業績リストおよび社会的活動
 ・大学院生のみ
 - (5) 学業成績証明書
 ・在籍する（直近に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
 - (6) 身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し
 ・社会福祉奨学生のみ
- IV 応募方法および締切り
 応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。
 大学は一括して2020年8月31日（月）（必着）までに、支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。
- V 結果通知
 選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2020年11月末日までに電子メールで通知する。
- VI その他の留意事項
- (1) 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2022年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求められることがある。
 - (2) 国内奨学金贈呈式は2021年1月に東京において開催の予定。（詳細は後日通知する）
 - (3) 応募者は、「連絡用応募者情報」を当協会ホームページからダウンロードし必要事項を記載し、メールで kokunaifellowship@jauw.org のアドレスに送付すること。
 - (4) 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。

理事会から

- ▶ 理事会はコロナ対策をしたうえで、遠隔地とのオンライン参加も取り入れ、活動を開始しました。
- ▶ CSW65開催の見通しが立たないため、若手参加者支援募集を今年度は行わない予定です。
- ▶ GWIの持続可能な将来像を答申するウェブ上の会費検討臨時委員会で、穂田信子会員が3月より活動しています。
- ▶ 事務職員外谷久美子さんが退職、7月より藤沼圭子さんに。
- ▶ 事務所夏季休業期間 8月7日（金）～16日（日）

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
 電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
<http://www.jauw.org> E-mail : jauw@jauw.org
 発行人 加納 孝代 編集責任者 穂田 信子
 発行日 2020年7月28日